

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成26年11月27日 (2014.11.27)

【公表番号】特表2013-541614(P2013-541614A)

【公表日】平成25年11月14日 (2013.11.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-062

【出願番号】特願2013-531639(P2013-531639)

【国際特許分類】

C 0 8 L 53/02 (2006.01)

C 0 9 D 153/00 (2006.01)

D 0 6 M 15/233 (2006.01)

D 0 6 M 15/356 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 53/02

C 0 9 D 153/00

D 0 6 M 15/233

D 0 6 M 15/21 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年10月1日 (2014.10.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 3 】

第 1 1 の態様において本開示は、第 1 から第 1 0 の態様のいずれか 1 つに従うフィルムを提供する。ここで、本フィルムは 5 0 % 伸びで 5 0 % 以下のセットを有する。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 8 】

第 1 6 の態様において本開示は、ポリマー成分 (a) および (b) を含む弾力性のあるメンブレンを提供する。ここで、

a) は、スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基とは異なる官能基で場合により官能化される少なくとも 1 つのスチレン系ブロックコポリマーであり、

b) は、少なくとも 1 つの末端ブロック A と少なくとも 1 つの内部ブロック B とを有する少なくとも 1 つのスルホン化ブロックコポリマーであり、各 A ブロックは、スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を実質的に含まず、各 B ブロックは、B ブロックのスルホン化感受性モノマー単位の数を基準として約 1 0 から約 1 0 0 モル % のスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含むポリマーブロックであり、

ここで、成分 (a) および (b) が約 0 . 1 : 1 から約 1 0 : 1 の重量比で存在し、メンブレンは 5 0 % 伸びで 5 0 % 以下のセットを有し、本明細書に後述されている手順で測定された水蒸気透過率が少なくとも 1 , 0 0 0 g / m ² / 日である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

【図1】本開示によるフィルム膨張およびセット（50%伸び）の、成分（a）の量に関する依存関係を示す。

【図2】本開示によるフィルムの係数および水分輸送率（MTR）が成分（a）の量に関する依存関係を示す。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0191

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0191】

a) スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基とは異なる官能基で場合により官能化される少なくとも1つのスチレン系ブロックコポリマーと、

b) 少なくとも1つの末端ブロックAと少なくとも1つの内部ブロックBとを有する少なくとも1つのスルホン化ブロックコポリマーとを含み、各Aブロックは、スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を実質的に含まず、各Bブロックは、Bブロックのスルホン化感受性モノマー単位の数に基づいて約10から約100モル%スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含むポリマーブロックであり、

ここで（a）および（b）は約0.1：1から約10：1の重量比で存在し、50%伸びで50%以下のセットを有し、本明細書中で以下に定義されている方法で定量された水蒸気透過率（MTR）は少なくとも1,000g/m²/日である。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0208

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0208】

E. 1. 方法

本明細書に記載されている乾燥状態におけるヤング係数、引張強度および破断時伸びを含めた機械的特性は、ASTM D412に従って測定された。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0209

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0209】

本明細書に記載されている湿潤状態におけるヤング係数、引張強度および破断時伸びを含めた機械的特性は、ASTM D412に準拠した方法と同様に測定された。これには、試験前に24時間にわたって水下で平衡化され、ならびに試験用に水中に完全に浸水されたサンプルを使用した。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0227

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0227】

【表 4】

表4：水の摂取量、乾燥係数、50%伸びでのセットおよびMTRの比依存性

フィルム番号	水の摂取量[%]	乾燥係数[psi]	<u>セット</u> [%]	MTR [g/m ² /日]
B. 1	~95	~45000	38.9	~28000
I. 6. a	68	48461	42.1	28428
I. 6. b	72	32249	36.6	23611
I. 6. c	66	1202	33.4	23322
I. 6. d	55	482	21.5	24059
I. 6. f	32	721	19.9	15212
I. 6. g	19	530	13.9	5164
I. 6. h	17	628	7.5	2186

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 2 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 2 8】

【表 5】

表5：様々なフィルムの水の摂取量、乾燥係数、50%伸びでのセットおよびMTR

フィルム番号	水の摂取量[%]	乾燥係数[psi]	<u>セット</u> [%]	MTR [g/m ² /日]
I. 8. d	58	12811	33.4	25722
I. 3. d	58	9245	38.5	19912
I. 5. h	26	1406	20.5	4507
I. 5. g	36	1217	16.9	27874

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 2 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 2 9】

【表 6】

表6：様々な特性に対する成分(a)の影響

フィルム番号:	I. 5. d	I. 1. d	I. 2. d	I. 3. d	I. 7. d	I. 8. d	I. 9. d
50%の <u>セット</u> :	21.5	31.5	30.2	38.5	37.1	33.4	29
100%の <u>セット</u>	51.9	86.6	68.9	77	75.8	73.9	70.9
水の摂取量[%]	55	48	55	58	67	58	nd
乾燥係数[psi]	482	4861	4280	9245	13751	12811	1385
破壊応力[psi]	nd	1092	1168	711	1519	1559	453
MTR[g/m ² /日]	24059	20441	29835	19912	nd	25722	nd

nd=未検

【誤訳訂正 10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 3 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 3 0】

【表 7】

表7：様々な特性に対する重量比の影響

フィルム番号:	I. 5. i	I. 5. h	I. 5. g
50%のセット:	14. 6	20. 5	16. 9
100%のセット	25. 3	45. 4	62. 9
水の摂取量[%]	17. 8	26. 4	nd
乾燥係数[psi]	1489	1406	1217
破壊応力[psi]	2825	2615	2650
MTR[g/m ² /日]	2136	4507	27874

nd=未検

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 3 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 3 1】

【表 8】

表8：様々な特性に対する重量比の影響

フィルム番号:	I. 1. i	I. 1. h	I. 1. g	I. 1. d
50%のセット:	5. 8	12. 3	10	31. 5
100%のセット	11	27. 6	30. 4	86. 6
水の摂取量	9. 3	40. 7	23. 7	48. 1
乾燥係数[psi]	1860	1086	1775	4861
破壊応力[psi]	1963	1248	2371	1092
MTR[g/m ² /日]	nd	nd	nd	20441

nd=未検

【誤訳訂正 1 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 3 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 3 2】

【表 9】

表9：様々な特性に対する重量比の影響

フィルム番号:	I. 8. g	I. 8. f	I. 8. e
50%の <u>セット</u> :	24.9	18.4	31.2
100%の <u>セット</u>	68.9	52.2	63.4
水の摂取量[%]	71.9	84	77.4
乾燥係数[psi]	1346	386	665
破壊応力[psi]	701	339	414
MTR[g/m ² /日]	nd	20521	29672

nd=未検

【誤訳訂正 1 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 3 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 3 3】

表 5 は、特に、本開示の好ましい実施形態の範囲内で得ることができる一意な特性の幾つかを実証している。フィルム番号 I . 6 . d は、例えば、成分 (a) はこれ自体では水を移送しないが、水分移送の挙動に影響を及ぼすことなく有意量の成分 (a) を成分 (b) に添加できることを示している。ただし、同じ組成範囲 (フィルム番号 I . 6 . a から I . 6 . d) において係数が大幅に低下し、5 0 % 伸びでのセット (%) が改善している。このことは、配合が適切であれば、材料の係数が低下し、弾性および水分輸送の増加が可能になることを示している。加えて、同じ組成物の範囲にわたって膨潤が驚くほど有意に低下したことに明示されているように、フィルムの寸法安定性は、水分輸送を犠牲にすることなく大幅に向上され得る。成分 (b) (フィルム番号 I . 6 . g および I . 6 . h) の下限においても、依然として水を移送する優れた弾性特性を有する材料を得ることが可能である。これらの種類の材料は、水分輸送量が低くても充分な特定の用途、例えば、ウエストバンド、襟およびカフスを有し得る。

【誤訳訂正 1 4】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図 1】

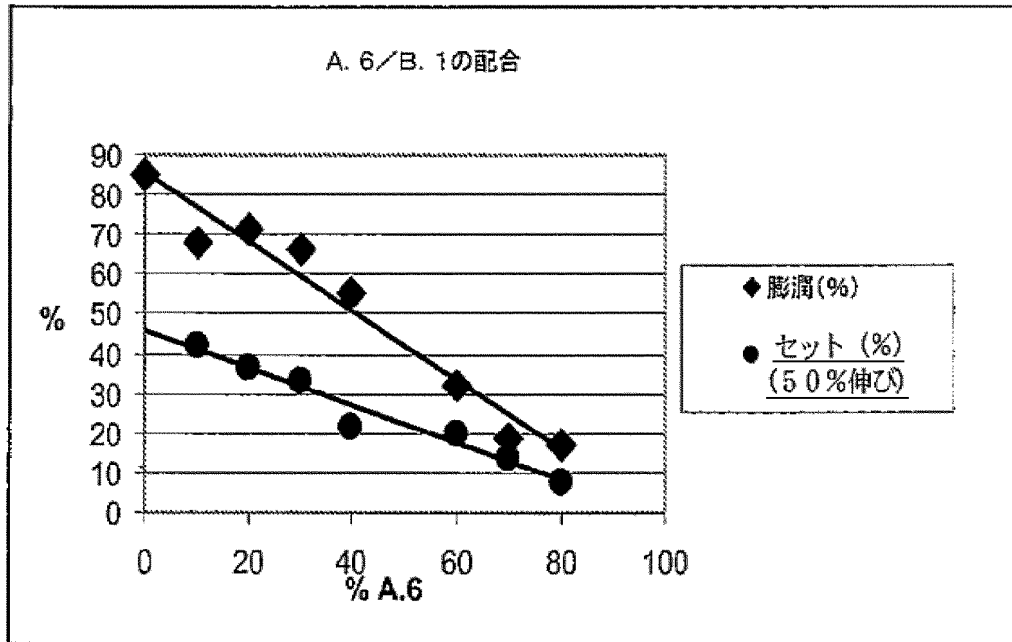


Figure 1

【誤訳訂正 15】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a) スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基とは異なる官能基で場合により官能化される少なくとも1つのエラストマーのスチレン系ブロックコポリマーと、

b) 少なくとも2つの末端ブロックAと少なくとも1つの内部ブロックBとを有する少なくとも1つのスルホン化ブロックコポリマーとを含み、

各Aブロックはスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含まず、各Bブロックは、Bブロックのスルホン化感受性モノマー単位の数を基準として10から100モル%のスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含むポリマーブロックであり、

a) および b) が 0.1 : 1 から 10 : 1 の重量比で存在し、並びに

前記少なくとも2つの末端ブロックAは、重合化 (i) パラ置換スチレンモノマー類、(ii) エチレン、(iii) 3個から18個の炭素原子のオレフィン、(iv) 水素添加された1,3-シクロジエンモノマー類、(v) 水素添加前のビニル含有量が35モル%未満である共役ジエンの水素添加されたモノマー類、(vi) アクリル酸エステル、(vii) メタクリルエステル、ならびに (viii) これらの混合物から選択される1つ以上のセグメントを含む、フィルム。

【請求項 2】

基質とコーティングとを含むコーティング付き物品であって、

a) スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基とは異なる官能基で場合により官能化される少なくとも1つのスチレン系ブロックコポリマーと、

b) 少なくとも2つの末端ブロックAと少なくとも1つの内部ブロックBとを有する少なくとも1つのスルホン化ブロックコポリマーとを含み、

各Aブロックはスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含まず、各Bブロッ

クは、Bブロックのスルホン化感受性モノマー単位の数に基づいて10から100モル%のスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含むポリマーブロックであり、

a)およびb)が0.1:1から10:1の重量比で存在し、並びに

前記少なくとも2つの末端ブロックAは、重合化(i)パラ置換スチレンモノマー類、(ii)エチレン、(iii)3個から18個の炭素原子のオレフィン、(iv)水素添加された1,3-シクロジエンモノマー類、(v)水素添加前のビニル含有量が35モル%未満である共役ジエンの水素添加されたモノマー類、(vi)アクリル酸エステル、(vii)メタクリルエステル、ならびに(viii)これらの混合物から選択される1つ以上のセグメントを含む、コーティング付き物品。

【請求項3】

a)スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基とは異なる官能基で場合により官能化される少なくとも1つのスチレン系ブロックコポリマーと、

b)少なくとも2つの末端ブロックAと少なくとも1つの内部ブロックBとを有する少なくとも1つのスルホン化ブロックコポリマーとを含み、

各Aブロックはスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含まず、各Bブロックは、Bブロックのスルホン化感受性モノマー単位の数に基づいて10から100モル%のスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含むポリマーブロックであり、および

a)およびb)が0.1:1から10:1の重量比で存在し、本明細書に記載されている湿潤状態における手順で測定して、50%伸びで50%以下のセットを有し、かつ、水蒸気透過率が少なくとも1,000g/m²/日であり、並びに

前記少なくとも2つの末端ブロックAは、重合化(i)パラ置換スチレンモノマー類、(ii)エチレン、(iii)3個から18個の炭素原子のオレフィン、(iv)水素添加された1,3-シクロジエンモノマー類、(v)水素添加前のビニル含有量が35モル%未満である共役ジエンの水素添加されたモノマー類、(vi)アクリル酸エステル、(vii)メタクリルエステル、ならびに(viii)これらの混合物から選択される1つ以上のセグメントを含む、弾力性のあるメンブレン。

【請求項4】

液体相と、

a)スルホン酸またはスルホナートのエステル官能基とは異なる官能基で場合により官能化される少なくとも1つのスチレン系ブロックコポリマーと、

b)少なくとも2つの末端ブロックAと少なくとも1つの内部ブロックBとを有する少なくとも1つのスルホン化ブロックコポリマーとを含み、

各Aブロックはスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含まず、各Bブロックは、Bブロックのスルホン化感受性モノマー単位の数に基づいて10から100モル%のスルホン酸またはスルホナートのエステル官能基を含むポリマーブロックであり、および

a)およびb)が0.1:1から10:1の重量比で存在し、

前記少なくとも2つの末端ブロックAは、重合化(i)パラ置換スチレンモノマー類、(ii)エチレン、(iii)3個から18個の炭素原子のオレフィン、(iv)水素添加された1,3-シクロジエンモノマー類、(v)水素添加前のビニル含有量が35モル%未満である共役ジエンの水素添加されたモノマー類、(vi)アクリル酸エステル、(vii)メタクリルエステル、ならびに(viii)これらの混合物から選択される1つ以上のセグメントを含む、コーティングまたはフィルム成型組成物。